



わたなべ正博 通信

参院選「日本共産党」と「唐沢ちあき」への支援ありがとうございました

上田市の得票「比例9971・唐沢11341」

比例の得票「全国515万4千・長野13万5千」

選挙制度の問題と民主党への怒り

投票率52%で、自民党の比例代表の得票率は34.7%選挙区でも42.7%です。

有権者の4分の1以下にしか支持されていないのに、過半数を超える65議席(改選総数121)で圧勝しました。その要因は、投票率の低さと一人区が多い選挙制度にあります。

もう一つは、有権者の期待を裏切った民主党への怒りがまだおさまらず、一人区で民主党が全敗し、複数区でも大敗したことです。これが自民党を助ける形になりました。

くらしが大変

また、自民党はタカ派的な政策を隠して「アベノミクス」などの経済問題を前

面に出すという戦術をとりました。

生活が深刻化しているため、実感はなくても幻の「アベノミクス」に期待せざるを得なかったということでしょう。

改憲勢力を押しとどめた

それでも、自民党など改憲勢力は改憲発議ができる3分の2を越える議席をとれませんでした。これは今度の参院選での重要な成果です。

くらしの問題は安倍政権の阿克苏鍵

8月には生活保護費が引き下げられ、10月には年金が引き下げられます。

春闘も終わり、賃上げはほとんどありません。円安による物価高に加えて来年

4月からは消費税増税が予定され、国民生活はますます苦しくなります。

民意と政権とのねじれ拡大・政権批判の受け皿「共産党」

安倍政権の経済政策が実体経済や国民生活の改善に結びつかないことがはつきりしてくれば、政権批判の波が生ずる可能性は大きいと思います。

すでに憲法96条改定や原発再稼働などには反対が多数でした。今後、このような民意と政権とのねじれは拡大せざるをえません。

そのうえ、集団的自衛権の行使容認や軍拡など時代錯誤なタカ派的政策で暴走すれば、周辺諸国との関係は悪化します。アメリカもそれを警戒しており、日本の孤立は深まるでしょう。今回、日本共産党は、政

策面で最も徹底した政権批判の「受け皿」となり、ぶれずに一貫している政治姿勢も評価され、8議席に躍進しました。

わたなべ正博のノート (12日現在)

- 1日 浅間池水土里打ち合わせ会
 - 2日 議員定数研究委員会
 - 3日 自治体学校「新潟(5日まで)」
 - 6日 松本市議会常任委員長との懇談会(松本市)
 - 7日 議会機能強化特別委員会
 - 8日 東北信9市議会委員長研修会(中野市)
 - 9日 議会機能強化特別委員会
 - 10日 モルティイ塩田街宣
 - 11日 甲子園へ
 - 12日 「上田西高」ありがとうございました
 - 11日 武石夏祭り
 - 14日 大六の花市
 - 13日 新盆回り(70軒)
 - 12日 下之郷ソフトボール大会・越戸の花火
 - 15日 上田駅前頭宣伝(終戦記念日)
 - 16日 生活相談(暮らしが大変)
 - 17日 モルティイ塩田街宣
 - 18日 浅間池周辺整備
 - 19日 永年党員伝達式
 - 20日 産業水道委員会協議会
 - 21日 中小企業振興条例勉強会(東京)
 - 22日 防災まちづくり勉強会(東京)
 - 23日 党全県議員会議
 - 24日 陽だまり相談会
 - 25日 党地区議員会議
 - 26日 モルティイ塩田街宣
 - 27日 獅子舞ご苦労さん会
 - 28日 浅間池作業・国民救援会総会
 - 29日 議会報告会委員長打ち合わせ会
 - 30日 議員定数研究委員会・会派代表者会
 - 31日 憲法学習会
 - 31日 上田市防災訓練
- (議会一般質問準備)

【8月】



昨年から続けている
モルティエ塩田前
〈オレ流〉

来春（3月）は上田市長・市議会議員の改選（選挙）です。引き続きみなさんの暮らしを守るため全力を尽くします。変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

**議員定数を減らすべきではないと考えます
「定数削減は民意を削ること」**

現在、議員（31）定数研究委員会を設置し検討を重ねています

定数問題は永遠の課題か？

定数はどのような根拠をもって決定するのか、議員報酬はいくらなら常識の範囲なのか。現段階では難しいところでは。

理想論からいえば、これからの議会改革によって市民のみなさんが、どれほど議会を本来の機能をそなえたものとして認識してもらえるかです。

定数と報酬の課題を、市民と議会との間の永遠の課題にしておくのかということです。

議会のあり方が問われている

少なくとも今の段階では、「財政危機対策」として論じられてきた、このテーマは、議会のあり方と

して議論すべきという時が来ていると思います。

将来「職業として確立するのか」「ボランティア議員制度はどうなのか」「議論は避けて通れない。」

「上田市議会基本条例（案）」の、議員定数については、「多様な市民意見を十分に反映でき、かつ合議性の議事機関として活発な議論が可能となるよう、総合的な観点から決定するものとする」としています。

積極的な「議会改革」進行中！

① 地方分権の流れの中で、上田市議会として積極的な「議会改革」が進められていること。

② 「議会改革」が進むにつれて議員の仕事が質・量ともに多くのことが求められてきていること。

③ 同時に地方自治体の事務

量が、これからも増えてくることも考えれば、当然議員の仕事もさらに増えることになる。

定数削減は民意を削ること

⑤ 合併によって地域（活動エリア）が広くなった、よって人口で単純に定数を決めるのは無理があること。

④ 例えば、武石地域などは市民の声が通らないというようなことが、ないようにならなければならない。合併後のまちづくりが求められますから地域代表は必要です。「地域協議会ではまだ不十分と考えます」

⑥ 全国類似団体の比較では、平成の合併をしたまちの平均は30・9人であること。

などです。

**「ブラック企業」4000社調査へ
厚労省世論と共産党の追及に押され**

厚生労働省は8日、若者を使い捨てにする「ブラック企業」が大きな社会問題になっているとして、集中的な監督指導を実施すると発表しました。

離職率が高い企業約100社をはじめ、過重労働や法違反の疑いがある約4000社を対象に9月の1カ月間に立ち入り調査を行います。

同省が「ブラック企業」に焦点を当てて取り組みを実施するのは初めて。参院選でも大きな争点となり、「ブラック企業」問題を追及してきた日本共産党が躍進するなど世論と運動、日本共産党の追及に押されたものです。

